



第7回



# シネマの中の高齢者

遠泳でドーバー海峡に挑む主婦たち……『ドーバーばばぁ』

『ドーバーばばぁ』は、54歳から67歳までの東京・立川周辺の主婦6人が遠泳チームを組み、ドーバー海峡をリレーで横断する挑戦を、2年にわたって取材したドキュメントである。英国とフランスの間にある海峡は直線距離では34キロなのだが、潮の流れが早いために泳者は流されることが多く、海水の温度も低い。ふつうの主婦が目ざす夢にしてはハードルが高いのだが、本作を見ていると、段々とその気持ちが理解できてくる。

ドーバー横断を志すチームの前に、さまざまな困難が立ちはだかる。メンバーの1人が股関節の手術をして、本番へ間に合わなくなる。英国へ渡った後も体調をこわす者が出てくる。ついに本番の日が来て、1人でもリタイヤが出れば記録が無効となる重圧のなか、1時間ずつを交代で泳いでいく。その1人ひとりが泳ぐ姿に、日本の日常生活をフラッシュバックで重ねることで、それぞれが内側に抱えるものが見えてくる。

リーダーの大河内さんは脳梗塞で障害の残る夫と、心臓の弱い92歳の母親の面倒を見ている。メンバーの鳥塚さんは歩行が困難な父親を介護

し、難病で病院に寝たきりの母親を見舞う毎日である。家族の世話や介護に追われる主婦たちに、「どうしてドーバー海峡なんかに行かなきゃならないんだ」と戸惑いを見せる夫や家族もいる。大河内さんは「介護があるから遠泳ができる、遠泳があるから介護ができる」と反論する。どういうことか。

親の介護や家族の世話をする主婦たちが、自分のためだけの目標や非日常の夢を持つ。そうすれば、日常のやらなくてはならないことも続けていけるというのだ。この目線の近さが共感を呼ぶ。彼女たち「チーム織姫」はその後、山形県の酒田～飛鳥間の39キロ横断の遠泳に挑戦し、次は対馬から韓国の釜山までの50キロに挑む予定だ。「ばばぁ」パワーに限界はないのである。

金子 遊（映像作家・脚本家・批評家）

## ドーバーばばぁ 織姫たちの挑戦

監督：中島久枝 ナレーション：小林優子

出演：大河内二三子、鳥塚しづ子、原田京子、高柳よしい、野田照美、津城清子ほか

2011年11月12日より大阪・シアターセブンほか 全国順次公開

2012年1月DVD発売予定（定価2,000円）